



ベクトルをそろえる ①

「教育の不易」の重視

- ◆ グランドデザイン「**はむらの学校教育**」は、時代を超えて変わらない「教育の不易」で構成されています。変化の激しい、先行き不透明な時代においては、各校が改めて教育の不易を重視し、日々の教育活動の基盤に据えることが肝要です。目指すは、「**全ての子供のよさと可能性を引き出し、伸ばす教育**」の実現です。



- ◆ **【言葉の力】**、すなわち「考える」「感じる」「想像する」「表す」の四つの力を、教師と子供が共に高め生かしながら、**【知・徳・体】**の調和のとれた人間としての力を育みます。併せて、生き方教育としての**【キャリア教育の推進】**、羽村市や我が国の**【伝統・文化理解教育の推進】**及び**【特別支援教育の充実】**を図ります。
- ◆ こうした教育を支えるのが、**【望ましい習慣の形成】**と**【自尊感情の醸成】**です。家庭と協力しながら子供たちに望ましい習慣を形成するとともに、自分は「やればできる」「伸びている」「役立っている」という実感を伴う体験をより多く積ませることが大切です。

「はむらの学校教育」 関連号

5号・6号・9号・10号・11号・35号・36号・37号・42号・45号・46号

自己の向上

作家／呂坤（りよこん）

人を責めず、人を理解し、自分の器を大きくする。これが、自分を向上させるということである。

出典：「賢人たちに学ぶ 自分を超越る言葉」 本田季伸著（かんき出版）

※ 25号で述べたとおり、人間の器を広げるキーワードは「利他」と「自律」であると考えます。